第 45 回薬剤耐性菌研究会

会 期: 平成 28 年 10 月 21 日 (金) 12:55 ~ 平成 28 年 10 月 22 日 (土) 12:20

会 場:安芸グランドホテル 4F コンベンションホール 「珊瑚」 〒739-0412 広島県廿日市市宮島口西 1-1-17 Tel:0829-56-0111 http://www.akigh.co.jp/

会 長:荒川 宜親(名古屋大学大学院医学系研究科)

開催当番: 菅井 基行 (広島大学院内感染症プロジェクト研究センター)

研究会事務局

連絡先:群馬大学大学院医学系研究科·薬剤耐性菌実験施設

代表:富田 治芳

TEL: 027-220-7992 FAX: 027-220-7996

平成 28 年度 群馬大学 文部科学省特別プロジェクト事業

「多剤薬剤耐性菌制御のための薬剤耐性菌研究者育成と細菌学的専門教育」より助成を受けて開催されます。

会場案内図(安芸グランドホテル)



〒739-0412 広島県廿日市市宮島口西 1-1-17

- ・JR 宮島口駅よりタクシーで約3分
- ・山陽自動車道廿日市 IC より約 10 分

ホテルが無料シャトルバスを運行しています。(状況に応じてピストン輸送も有) http://www.akigh.co.jp/access/index.html

行き JR 宮島口駅→ホテル

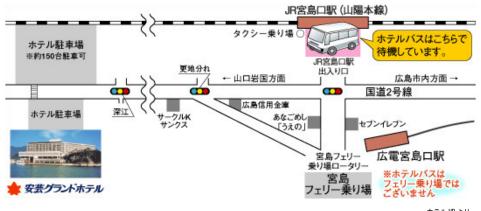
①11:40 ②12:10 ③12:40 ④13:10(30分おき)

帰り ホテル→JR 宮島口駅

①11:30 ②12:00 ③12:30 ④13:00(30分おき)

シャトルバス乗り場

JR宮島口発便利用の場合、山陽本線 JR 宮島口駅前ロータリーよりご乗車ください。 ホテル発便利用の場合、ホテル正面玄関よりご乗車ください。



ホテル 旧 より

ご案内

1. 参加受付

受付は10月21日(金)12:00より4Fコンベンションホール 珊瑚 にて行います。

2. 宿泊/参加費

17,000 円 (内訳: 年会費 1,000 円、研究会参加費 8,000 円、宿泊費 8,000 円) (個室希望の方は別途 5,000 円)

3. 口演発表

- ・一般演題の口演時間は10分程度とし、質疑応答を含めて15分です。
- ・1 演題あたりスライド 12 枚程度でお願いします。
- ・発表はマイクロソフトパワーポイントでお願いします。
- ・液晶プロジェクターの入力端子は Dsub-15 ピンのみです。必要な場合はアダプターをご持参下さい。USB メモリ等で発表データをお持ちの方は、発表用 PC (windows8.1, PowerPoint2013) を使用して頂くこともできます。 Macintosh をご利用の方はご自身の PC 本体をご持参下さい。
- ・発表に際し、COI やスポンサーシップ等につきましては、先生方ご自身で 対応願います。
- ・特別講演をされる Nordmann 先生が初日も参加される可能性がありますので、可能であれば「スライドを英語にする」あるいは「英語のスライドを何枚か入れる」ようにして頂ければ幸いです。もちろん必須ではありませんし、可能な範囲で結構です。

4. ICD 教育講演参加受講証明書について

本研究会は ICD 協議会の教育講演会として認定されており、ICD 認定更新点数 2 点を取得できます。参加受講証明書の必要な方は受付時にお申し出下さい。

第45回薬剤耐性菌研究会プログラム

平成28年10月21日(金)

12:55~18:30

12:55~13:00

開会の挨拶 荒川 宜親 (名古屋大学)

一般演題:発表12分、討論3分

13:00~

座長:松井真理(国立感染症研究所)

ESBL

市販食肉における基質特異性拡張型 β - ラクタマーゼ産生 $Escherichia\ coli$ の検出と分子生物学的解析

○大崎裕介¹, 齋藤さとみ¹, 小坂駿介¹, 鈴木匡弘², 長野由紀子³, 長野則之¹, 荒川官親³

(¹信州大学大学院 医学系研究科, ²愛知県衛生研究所 生物学部・細菌研究室, ³名古屋大学大学院 医学系研究科)

国産豚腸内容物から分離された CTX-M-型基質特異性拡張型 β-ラクタマーゼ産生 大腸菌の分子疫学解析

〇法月千尋¹, 川村久美子¹, 林謙吾¹, 和知野純一², 鈴木匡弘³, 荒川宜親² (¹名古屋大学大学院医学系研究科 医療技術学専攻, ²名古屋大学大学院医学系研 究科 分子病原細菌学/耐性菌制御学, ³愛知県衛生研究所 生物学部)

国内のペットにおける大腸菌 B2-025-ST131 CTX-M型基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ産生大腸菌の拡散

○林謙吾¹,川村久美子¹,法月千尋¹,玉井清子²,荒川宜親³

(¹名古屋大学大学院医学系研究科 医療技術学専攻, ²(株)ミロクメディカルラボラトリー, ³名古屋大学大学院医学系研究科 分子病原細菌学/耐性菌制御学)

医療関連感染由来 Serratia marcescens が保有する bla_{TEM-61} のプロモーター領域の 多様性

- ○堀内綾華^{1,2}、大塚彩香²、長野由紀子³、荒川宜親³、長野則之¹
- (¹信州大学大学院 医学系研究科, ²長野県立こども病院 臨床検査科, ³名古屋大学大学院 医学系研究科)

座長:八木哲也(名古屋大学)

Acinetobacter & GBS

Acinetobacter 属菌用 POT 法における A. pittii マーカー陰性 A. pittii の検討
○鈴木匡弘 ^{1,2},荒川宜親 ²

(¹愛知県衛生研究所,²名古屋大学大学院医学系研究科 分子病原細菌学/耐性菌制御学)

アシネトバクター属菌に拡散している巨大な薬剤耐性プラスミドの解析

〇鈴木仁人¹, 松井真理¹, 鈴木里和¹, 瀬川孝耶¹, 矢原耕史¹, 鹿山鎭男², 菅井 基行², 柴山恵吾¹

(1国立感染症研究所 細菌第二部,2広島大学大学院医歯薬保健学研究科 細菌学研究室)

Acinetobacter baumannii の種内多数ゲノム比較による水平伝達に由来しカルバペネム耐性株に広く保存された細胞表面接着因子の遺伝子の発見

○矢原耕史,鈴木仁人,川上小夜子,柴山恵吾 (国立感染症研究所 細菌第二部)

14:45~

座長:木村幸司(名古屋大学)

MRSA & MDRP

ベトナムの医療施設で分離された多剤耐性緑膿菌の分子疫学解析

○多田達哉, 秋山徹, 島田佳世, 切替照雄

(独立行政法人 国立国際医療研究センター研究所 感染症制御研究部)

POT 法及びクローン簡易同定法による MRSA クローンの変遷調査

〇白鳥浩美,鈴木匡弘,青木美耶子,田中佑三世,山田和弘,松本昌門 (愛知県衛生研究所 生物学部細菌研究室)

MRSA 臨床分離株の遺伝子型シフトに関する調査研究

○小坂駿介^{1,2}, 大崎裕介^{1,2}, 齋藤さとみ^{1,2}, 前山佳彦^{1,2}, 長野則之^{1,2}, 佐藤智明², 長沢光章², 長野由紀子², 玉井清子², 鈴木匡弘², 谷本弘一², 奥住捷子², 富田治芳², 柴山恵吾², 荒川宜親²

(1信州大学大学院 医学系研究科,2薬剤耐性菌研究会プロジェクト)

15:45~

座長:鹿山鎭男(広島大学)

耐性機構(1)

ベータラクタム系薬低感受性 B 群レンサ球菌 (Group B *Streptococcus* with reduced β-lactam susceptibility, GBS-RBS)の最近の話題

〇木村幸司¹, 長野則之², 坂野弘嗣¹, 諸井博明¹, Megan E. Reid¹, 山田涼子¹, 鈴木健史¹, 神谷知都世¹, 森本真紀子¹, 関友望¹, 谷口莉奈¹, 宮崎朗¹, 金万春¹, 和知野純一¹, 荒川宜親¹

(1名古屋大学 大学院医学系研究科 分子病原細菌学/耐性菌制御学, 2信州大学 大学院医学系研究科 医療生命科学)

大腸菌臨床分離株におけるフルオロキノロン系抗菌薬耐性とチゲサイクリン耐性 との関連性

○佐藤豊孝¹,鈴木裕樹¹,山本聡¹,小笠原徳子¹,白石宗¹,品川雅明²,高橋聡³,田村豊⁴,横田伸一¹

(¹札幌医大・医学部・微生物学, ²札幌医大・附属病院検査部, ³札幌医大・医学部・感染制御・臨床検査医学, ⁴酪農大・獣医・食品衛生学)

緑膿菌のカルバペネム耐性に対するリスクファクターと OprD タンパクの役割

○平林亜希 1,2、八木哲也 1,2

(1名古屋大学大学院医学系研究科臨床感染統御学,2名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部)

16:30~

座長:鈴木仁人(国立感染症研究所)

耐性機構(2)

タゾバクタム/ピペラシリン耐性大腸菌の耐性機構の解析

〇鈴木裕樹¹,佐藤豊孝¹,山本聡¹,小笠原徳子¹,白石宗¹,品川雅明²,高橋聡²,³,横田伸一¹

(札幌医大・¹医学部・微生物学, ²附属病院検査部, ³医学部・感染制御・臨床検査医学)

嫌気環境における大腸菌のホスホマイシン輸送体発現と抗菌活性増大メカニズム の解析

倉林久美子¹,谷本弘一³,富田治芳²,³,○平川秀忠¹

(¹群馬大学 先端科学研究指導者育成ユニット, ²群馬大学大学院 医学系研究科 細菌学、³同研究科附属 薬剤耐性菌実験施設)

耐性菌異物排出ポンプの構造解析と新規阻害剤開発

- ○山崎聖司¹,中島良介²,櫻井啓介²,林克彦²,井上雄太³,樋口雄介³,加藤修 雄³,山口明人²,西野 邦彦¹
- (¹大阪大学・産業科学研究所・生体分子制御科学研究分野, ²大阪大学・産業科学研究所・生体防御学研究分野, ³大阪大学・産業科学研究所・医薬品化学研究分野)

17:15~

座長:長野則之(信州大学)

検査方法(1)

新規なカルバペネマーゼ鑑別ディスクセットの有用性評価

- ○大崎裕介¹, 久保亮一², Jonathan Hobson³, Mya Davies³, 齋藤さとみ¹, 小坂 駿介¹, 小穴こず枝¹, 長野由紀子⁴, 長野則之¹
- (¹信州大学大学院 医学系研究科,²関東化学株式会社 試薬技術部,³Mast Group Ltd.,⁴名古屋大学大学院 医学系研究科)

Reevaluation of Isoniazid MICs for *Mycobacterium Tuberculosis* by Wellpack Media S for The Testing Results by BrothMIC MTB-I Method

- ○Hiroko Yoshida, Kenichi Onohara, Tomomi Tazawa, Chika Matsui, Yoshitaka Tamura
- (Osaka Prefectural Medical Center for Respiratory and Allergic Diseases, Osaka Prefectural Hospital Organization)

MSSA 高菌量接種による Inoculum effect の出現

- ○佐伯理知¹,品川雅明¹,八鍬佑貴¹,韮澤慎也¹,佐藤勇樹¹,淺沼康一¹,高橋 聡¹,²
- (¹札幌医科大学附属病院 検査部, ²札幌医科大学医学部 感染制御・臨床検査医 学講座)

LAMP 法による β-lactamase 遺伝子(GES) 検出 ―緑膿菌臨床分離株への応用― ○高野 智圭, 関 みつ子, 早川 智 (日本大学医学部 病態病理学系微生物学分野)

感染対策

感染対策の地域連携支援システム (RICSS)の開発と将来

- ○藤本修平¹, 八木哲也², 飯沼由嗣³, 村木優一⁴, 石黒信久⁵, 田辺正樹⁴, 筒井敦子⁶, 矢原耕史⁶, 大島利夫¹, 八東眞一⁷, 静野健一⁸, 荻野毅史⁹, 遠藤敏尚¹⁰, 畑中公基^{6,11}, 太田浩敏¹², 土屋麻由美¹², 丹羽隆¹², 荒川宜親², 村上啓雄¹², 柴山恵吾⁶
- (¹東海大学, ²名古屋大学, ³金沢医科大学, ⁴三重大学, ⁵北海道大学, ⁶国立感染症研究所, ⁷日高病院, ⁸千葉市立海浜病院, ⁹済生会川口病院, ¹⁰仙台オープン病院, ¹¹公立岩瀬病院, ¹²岐阜大学)

座長: 菅井 基行 (広島大学)

9:00~10:00

特別講演1

コリスチン耐性に関する現状と将来(仮題)

Patrice Nordmann

(University of Fribourg, Switzerland)

10:00~10:30

特別講演 2

What's new on mcr-1?

Yohei Doi

(University of Pittsburgh School of Medicine, USA)

一般演題:発表12分、討論3分

10:30~

コリスチン耐性

日本における大腸菌のプラスミド性コリスチン耐性遺伝子(mcr-1)保有状況とヒト 医療に与える影響

○福田昭¹, 佐藤豊孝², 鈴木裕樹², 臼井優¹, 浅井鉄夫³, 横田伸一², 田村豊¹ (¹酪農大 獣医・食品衛生, ²札医大 医・微生物, ³岐阜大院連獣)

本邦で分離された mer-1陽性大腸菌 ST457 の全ゲノム解析に基づく伝播経路の推定 〇島綾香¹,関塚剛史²,山下明史²,加藤健吾²,黒田誠²,川西路子³,木島まゆ み³,松井真理¹,林美智子¹,柴山恵吾¹,鈴木里和¹

(1国立感染症研究所細菌第二部,2国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター,3農林水産省動物医薬品検査所)

~~~~coffee break 11:00~11:15 ~~~~~

11:15~

座長:鈴木匡弘(愛知県衛生研究所)

#### 検査方法(2)

Staphylococcus aureus を対象とした DSTM 法による迅速薬剤感受性試験法の検討 ○八鍬佑貴¹, 品川雅明¹, 佐伯理知¹, 田中真輝人¹, 佐藤勇樹¹, 小林 亮¹, 韮 澤慎也¹, 淺沼康一¹, 高橋 聡¹,²

(<sup>1</sup>札幌医科大学附属病院 検査部, <sup>2</sup>札幌医科大学 医学部 感染制御・臨床検査医学講座)

Drug Susceptibility Testing Microfluidic device (DSTM)法を用いた MRSA の迅 速検出法

○松本佳巳 1,2, 渡邉文章 2, 御子柴孝晃 2, 西野邦彦 1

(1大阪大学産業科学研究所,2株式会社フコク マイクロ TAS 事業ユニット)

POT キット大腸菌用を用いた分子疫学解析

〇品川雅明<sup>1</sup>, 佐伯理知<sup>1</sup>, 佐藤豊孝<sup>2</sup>, 八鍬佑貴<sup>1</sup>, 韮澤慎也<sup>1</sup>, 佐藤勇樹<sup>1</sup>, 淺沼康一<sup>1</sup>, 高橋聡<sup>1,3</sup>

(<sup>1</sup>札幌医科大学附属病院 検査部, <sup>2</sup>札幌医科大学医学部 微生物学講座, <sup>3</sup>札幌医 科大学医学部 感染制御・臨床検査医学講座)

Drug Susceptibility Testing Microfluidic device (DSTM)を用いた ESBL の迅速 検査法の検討

〇小川美保<sup>1</sup>, 坂田竜二<sup>1</sup>, 市村禎宏<sup>1</sup>, 霜島正浩<sup>1</sup>, 渡邉文章<sup>2</sup>, 御子柴孝晃<sup>2</sup>, 松本佳巳<sup>2,3</sup>

(¹(株) ビー・エム・エル総合研究所,²(株) フコク マイクロ TAS 開発グループ,³大阪大学産業科学研究所)

12:15~12:20

閉会の挨拶